



白い森小国から

今から約 10 年前たまたま会社で売れ残っていたジムニー JA11
このまま店頭に展示していても売れそうにも無いので俺の足代
わりに下ろしてしまおう！ そんなジムニーが与えてくれた物は…。

文／今 修
写真／K-PRODUCTS

ジムニーは決して最高ではない！ 乗っている奴らが最高なんだ！！

ジムニーに乗った第一印象は「乗り心地は悪いし狭いし…」。

一般的な使い方をする車として考えると絶対に乗りたくない車 NO.1 だ！

しかし、昔からオフロード的な事に興味があったので、チョットした河原や林道などを走ってみたら予想外に楽しい！これをきっかけに林道や廃道、砂浜やオフロードコースなど、昼夜とわずに走りに行き、ジムニーの魅力にはまるにはそう時間がかかりませんでした。

その頃、地元の小国町には数名のジムニー乗り達がいて、走りに行く時は何時もその仲間達と一緒に、当時は自分達の周りにジムニーに乗って遊んでいる人間がいないと思っていました。だからジムニーの情報は全て「スーパースージー」から。しかし、自分達が知らないだけで、自分達のようなジムニー乗り達が意外に周りにいたりして…。

行動範囲を広げていくうちにジムニー乗りの人達と徐々に知り合っていました。時には廃道で知り合ったり、オフロードコースで

知り合ったり、いつしか一緒に走るようになりチームを作り、気が付くと一番多い時でチーム員は 50 台近くになっていました。とにかくジムニーが好きで走る事が好き、そんな人間が集まったチーム。その後は色々な事情でジムニーを手放したり、結婚して自由な時間がなくなったり…。現在では大分少なくなり 30 台ぐらいかな。

クラブ員の中でも、ジムニーに乗ることを真剣にモータースポーツとして捉え、競技はもちろん、マナー的な事も含め頑張っているのがレーシングチームで、現在 6 名います。

レーシングチームは、総合格闘技的にトライアルからスピードトライアル、ダートに耐久レースにと、オフロード競技と言われるイベント全般に出場しています。

1つの競技にとらわれないのは、それぞれ、トライアルにはトライアルの楽しさ、ダートにはダートの素晴らしさを知っているの、1つに絞れないのが理由です。車やパーツもレースに合わせて替えたりせずに、1台で色々な種目に参戦しています。

よく k-pro レーシングチームは色々な競技

に参加しているけど「耐久レースは車が壊れるでしょう」ってな事を言われます。

過酷な耐久レースだからといって、車が勝手に壊れるのではありません。ドライバーが壊れる走り方をしているから壊れるのです。もしくは、既に壊れているのに気が付かずに耐久レースに出て完全にとどめを刺すかのどちらかです。車を壊しても良い、少々凹ませても良いなんて思って走れば何処でも走れちゃいます！車を壊さずに凹ませずに走ろうとするから難しいんです。長くジムニーで遊ぶには根性論で走ってはダメです、考えながらなるべく壊さないように走らせるのが一番良い方法だと思ってます。

2011 年 夏！ 子供に帰った親父達の夏休み

今年の 8 月 14 ～ 15 日と山形県尾花沢市にある銀山サーキットでレーシングチームの合宿を行いました。メンバーは自分を含めて 4 人です。2 名は仕事の都合で不参加でしたがパワフルな親父達が 4 人も集まれば



ジムニーだけの贅沢な時間、最高の夏休み！

頭の中をからっぽにしてジムニーでひたすら走る！考えることはブレーキのタイミングとアクセルのタイミング。遊びだからこそ真剣に夢中で遊びたい、夢中になれるものは遊びにもならない。

…ある意味「子供に帰った親父達の夏休み」でした。

銀山サーキットを管理している地元のジムニー屋さん【駆動輪】代表の折原氏に今回の合宿及び観光スポットなど色々とお願ひしました。

午前 11 時頃尾花沢市に到着、折原氏と待ち合わせ！早速美味しい蕎麦が食べられる瀧見館に案内して頂きました。

瀧見館は銀山温泉の山の中腹にある旅館で、そこから見える【白銀の滝】は絶景です。【白銀の滝】もう 4 百年以上前からある滝だそうです。そんな伝統ある滝が見える部屋で美味しいお蕎麦を頂きました。

蕎麦と言えば最近、蕎麦を語ろうかと思ひ色々な店に食べに行っては見たものの、蕎麦は難しい…。何が美味いか不味いか未だにわかりません。

この日も水蕎麦といって純粋に蕎麦の味を楽しんで下さいと水の入ったお椀に蕎麦が 2 本入っていたのを頂きましたが俺にはただの味のしない蕎麦でした…スマセン。きっと蕎麦通の人にとってはたまらなく美味しい蕎麦なんでしょう。

腹いっぱいになったところでの【白銀の滝】を近くで見る事になりました。【白銀の滝】は本当に綺麗な滝です。水しぶきがとても涼しく気持ちいい！

この日の気温は 35 度！こんな涼しげで綺麗な滝を見ては、いてもたってもいられないのが子供に帰った親父達。観光客の前でパンツ一丁になり飛び込みました！流石！暑い時、涼しげな滝があれば飛び込む、単純な親父です！が、しかし、飛び込んだところまでの勢いは良かったのですが、あまりの水の冷たさで 5 分も耐えれず心臓バクバク状態。すぐに退散。

ズボンを履くまでのわずかな時間、一瞬で冷え切った体は思うように動かず、ケツをアブに刺され大騒ぎ！散々でした。

観光客に「つめたくなかったですか」とか声を掛けられてスター気分になった勘違い親

父達。取りあえず 4 百年以上の歴史がある滝で水浴び出来たしスター気分にもなれたし満足！苦笑いしている地元の折原氏、早くこの場を立ち去りたいって事でいよいよ銀山サーキットへ！

山のテッペンにある銀山サーキットは自分達としてはパラダイス！周りには民家も無ければ車も通らない、この日我々以外に利用者も無く完全に貸し切り状態「うお～最高だぜ！」到着した瞬間からまたしても全員パンツ一丁。早速、ベースキャンプを設置、寝床となるテントも各自持参しているので自分の好きな場所に設置、走って疲れたら裸になって日焼け！汗をかけば頭から水がぶってまた走りに行く、最高の環境です。時間は午後 1 時、これから夕方まで走りまわります。

走る前にチームコーチである DB レーシング小野氏からの練習カリキュラムと忠告を俺が代弁し発表。練習開始です。ちなみに小野氏の忠告は「大会近から熱くなって車壊すんじゃないぞ！」でした。

練習とはいえモータースポーツなのでヘルメット・グローブ・レーシングシューズ着用は基本。さすがにこの日の気温は 35 度でしたのでレーシングスーツは着用しませんでした。が長袖・長ズボン着用、1 セット 1 時間ノンストップの練習走行、休憩をとりながら 2 セットこなしましたが意外にきつかった…。コースのところどころにクロカンコースもあり、飽きる事無くこの日は夕方 18 時までみっちり走りこみました。

今日の練習はこれで終了。車の状態を確認し汚れをふき取り、残すは人間の方を綺麗にするだけ。ホコリと汗とで体からは異臭が…大変な事になっている。大正浪漫あふれる銀山温泉に出発です。

今回のメンバー平均年齢 48 歳と完璧に親父です。早朝から約 140 キロ移動、移動時間 3 時間 30 分、午後から夕方までみっちり走り込みクタクタのはずなのだが、気の合う仲間達と好きな事をやっていると疲れも忘れるようです。温泉に入るなり桶を被り水を

掛け合ったり熱湯を掛けあったりで大騒ぎ！汗を流しに来たのだからよけい汗がきました。

ジムニーが与えてくれた仲間達 俺の夢は生涯現役！

夜は BBQ しながら一晩中ジムニー談議に華を咲かせました。日頃時間に追われる生活をしている分、こういった時間は大切ですし贅沢な時間の使い方です。みんなの口から決まってでる言葉は「あんな風に走ってみたい」、「あの大会で勝ちたい」、「みんなであの場所にツーリングしたい」などジムニー乗りであれば誰でも思い描いている話です。

今ここに集まっている仲間達は住んでいるところも働いているところもそれぞれ違います。ジムニーという乗り物を通して知り合えた仲間達が、かっこつける訳でもなく損得勘定する訳でなく、無邪気に笑ひ自分の夢を語っている。

前述しましたが、ジムニーであんな風に走ってみたい！あの大会で勝ちたい！などは、ジムニー乗りであれば誰しもが思い描いている夢でしょう。でも、誰よりも上手く走る事が一番素晴らしい事でなく、大会で勝つ事が最も凄い事ではない。そこに向かって練習している姿が綺麗であり、それこそが本当に素晴らしい事だと俺は思います。

過去に自分も何度か大会で表彰台に上がった事もしたし、確かにその時は嬉しいけれど、思い出として残っているのは、そんな事よりも仲間と練習したり走りに行ったりした事の方が自分の胸に刻み込まれている。だから俺は少しでも長くこの仲間達と、そして集まってくるジムニー乗りの親父達と一緒に走り続けていたいと思っています。

「あの時は楽しかったなあ」とか「昔はこうだったよなあ」なんて昔話をするよりも、いつまでもいくつになっても夢を語りたいと思う。

この原稿が掲載される 9 月上旬は、新潟県柏崎で行われるスプリントレースに向けて親父達はまた盛り上がっている事でしょう。



大正ロマン漂う湯の町 銀山温泉

瀧見館の前身は一軒の蕎麦処、尾花沢産の蕎麦粉を使いつなぎを一切使わずに挽きたて、打ちたて、茹でたてにこだわっている。店内からは【白銀の滝】が眺望できて、まるでタイムスリップしたかのような風景にゆったりとした時間が流れる。